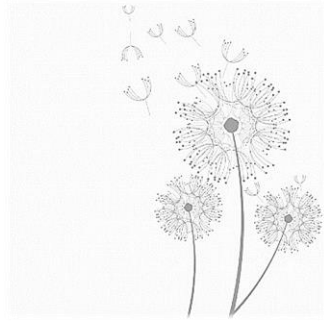




爽風

社会福祉法人
そうふう会広報誌

2021年 春 第19号

巻頭言

社会福祉法人そうふう会 理事長 山田義昭

記録に残したいこと

コロナ感染防止については、春先を迎え緊急事態宣言が解除されリバウンドの傾向を横目で見つつ、これを記しています。メンバー・支援者が罹患せずにこれたことを、感謝したいと思います。

標記の記録というのは、心の片隅ということです。忘れてはいけないと思うことです。

テーマは「日本学術会議の新会員6名が任命されなかったこと」についてです。直接的な障害者福祉と関係が無いように思われるかもしれませんが、意思決定が何かと問われる時代となり、忖度が揶揄の念で語られ、時代の行末が危ぶまれている中で、国の中枢が何を考えているのか、知っておくことは大切だと感じています、改めて言うまでもない事なのですが。

昨年9月に任期が終了した日本学術会議の会員の改選について、菅首相は6名の任命を拒否しました。経過を詳しく記すには紙面が足りませんので、12月19日付毎日新聞の本田由紀東大教授への取材記事が判りやすいと思いますので、一読ください。問題は拡大し、日本学術会議の在り方に「すり替える」というより「本丸は、そこか」という流れです。世論の相当の批判があり、論理破綻をした答弁でしたが撤回に至らず、ごり押しが通ってしまう状況となった。毎日新聞では別紙面で、加藤陽子東大教授のオピニオン欄で「今、起きているのは、政治の側が科学の側に、科学技術の伸張方法をめぐり原理的対決を迫る事態だ。その先で、戦艦大和の愚策と「悲劇」が繰り返されることなぞあってはならない。」と結ぶ分を載せています。戦艦大和の愚策というのは、科学的根拠もなく巨大戦艦の建造と特攻が勝利に結びつくという軍部の主張が、前段で書かれている。

障害福祉の分野では、今まさに方向性を見失っている、かの状況である。国際障害者年の「完全参加と平等」という眩しさを感じた時代から、身の回りの福祉制度の整備がすすめられた今日、輝きを放つものはなんであるのか。当事者・家族の高齢期への不安、ますます増える「障害者」が形成する主張、社会の構成物としてと

らえられた事業という「福祉」の将来、コロナ禍で優先順位が語られ、基準が恣意的に語られる時代に、共に生きる社会をどの様に展望するのか。1年、じっくりと考えてみたいですね。

毎 日 新 聞

(第3種郵便物認可)

排除する政治

学術会議問題を考える

田

日本学術会議の新会員候補6人が官義偉首相から任命されなかった問題は、学術会議のあり方そのものにもまで論議が拡大しつつある。9月まで会員だった本田由紀・東京大教授(教育社会学)は「菅首相は任命拒否の問題から学術会議のあり方に国民の目をそらすようにしているのではないか」と批判する。

【本許はるみ】

——本田さんは2014年9月に学術会議の会員になり、20年9月に6年の任期を満了しました。任命拒否の問題を契機に、政府は行政改革の視点で会議のあり方を検討しようとしています。

◆そもそも今回の問題は、学術会議で完結するはずの会員の選考に政治が介入してきた手続き上の問題です。それにもかかわらず、学術会議の活動そのものに議論がすり替えられています。仮に会議のあり方に問題があったとしても、まったく切り離して考える必要があります。

——本田さんも会員の推薦に関わっていますが任命拒否をどう感じましたか。

◆候補者は長い選考過程を経て推薦されています。政権はそれを覆しました。学術的基準に基づいた推薦を、学術に携わったことのない政権が勝手に判断するのは、明らかに不当です。理由を説明できていません。6人が任命されたければ、学術会議で果たせた役割があったはずですが、政権は6人からその権利を奪うとともに、国民がその方々の活動から得られていたはずのメリットも奪いました。

——菅首相は「総合的、俯瞰的な活動を確保する観点から判断した」と言っています。

政治介入 議論すり替え



学術会議会員の任命拒否に、抗議の声を上げる人たち＝東京都千代田区で10月、吉田航太撮影

える有識者会議。が15年3月に出した提言に「自らの専門分野の枠にとらわれない俯瞰的な視点をもって向き合うことのできる人材が望ましい」とあるにもかかわらずとされているようにです。

しかし、6人が「総合的・俯瞰的に」抵触する理由は説明されていません。なぜ6人が他の人と切り離されて任命されたのか。菅さんの「前例を踏襲していたのか」というインタビューでの言葉は、新鮮味があるように聞こえますが、法律を踏まえてこれまで受け継がれてきたやり方に反することをやるなら、しっかりと説明が必要ですね。

——菅首相は学術会議の選考方法の課題や予算にも触れていました。

東大教授 本田 由紀氏



＝相模原撮影

ほんだ・ゆき
1964年生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。専門は教育社会学。「多元化する『能力』と日本社会」(大佛次郎論壇賞奨励賞)、「教育は何を評価してきたのか」など著書多数。

提言多数 ほぼ手弁当

——会員だった6年間のどのような活動をしていましたか。

◆「ジェンダー政策分科会」の委員を拝し、10ほどの分科会に所属しました。ジェンダー政策分科会、別の分科会と共同で刑法改正を求める提言を出しました。性暴力に対する国際基準を参考に、

を作り出そうとしているのでしょうか。任命拒否の問題から、学術会議のあり方に国民の目をそらすように、意図的に誤解を広げていると思います。

「会員0日は日本学士院会員になり、死ぬまで500万円の年金をもらえる」というテーマが広がりましたが、こんでもない。そんな学術会議の印象を悪くしたいのでしょうか。

——菅首相は人事への介入は「学問の自由とはまったく関係ない」と言っています。

◆6人が任命拒否されたことだけを見れば、直接的な打撃は大きくないかもしれませんが、今回のようなことをおこすという風潮が広がらない限り、放置すれば、堤防が決壊するきつかけになりかねません。「あの時黙っていたじゃないか」と言われる余地を残してはいけません。大学の学長選や研究費を学術だ

同意のない性行為を犯罪と規定するように強求めました。

——自民党の下村博文政調会長は、学術会議から政府に対する答申や勧告が近年はあまりないと指摘しましたが、答申はそもそも政府からの諮問がないと出ません。自主的な提言は数多く発表しており、20年10月で約70本を出しています。

それ以外にも、公開シンポジウムやフォーラム、国際会議の開催、広報誌の発行など、目が回るようにさまざまな活動を行っています。学術会議がシンクタンクや学会連のよう、丁寧な選考で選ばれた学術の代表者が、重要なテーマを自ら設定し、公的な立場から意見を言うことで、世界各國の学術団体間ネットワークの日本代表としての側面もあります。

——学術会議に課題があるとすれば、何でしょうか。

◆学術会議の活動自体には確かに複雑な背景もあります。私が学術会議の活動意識したのは10年ほど前で、若いこ

けでなく、学校教育、文化芸術、日常的な発言などあらゆる場面に政治権力に従順であり、という圧力が及んでくる恐れがあります。今は傷が浅いとしても必ずここで止めておく必要があります。政権も、自分たちの暴走を止めてくれる存在を失い、むしろ怖くないのでしょうか。

——学術会議の大西隆・元会長は、16年の補欠人事から「人事介入」が始まったと語っています。本田さんの任期中にも介入があったことにあります。

◆一般の会員の私には詳細な情報は伝えられていませんでした。ただ、何か変なことが起こっているということも漏れ聞こえており、嫌な予感を感じていました。政権は補欠人事から徐々に嫌がらせのようなことを始め、あけすきに表に出たのが今回でしょう。首相周辺は、これまでもやってきたことから、こういう感覚なのではないでしょうか。

ろあまり関係のない組織だと思っていました。若手研究者支援に関する提言などもしていますが、総じて学術会議の発信が社会的にあまりインパクトを与えられていないのも事実です。

一方、内部では社会状況に即して次々と委員会や分科会が設置され、会員が多忙になっています。提言は1人あたりの文字数や形式が厳密に決まっています。内部での厳しい査読もあり、細部まで精査をしています。分科会の中には、ベテランの先生が議事録作成を担当しているものもあります。シンポジウムのポスターも自分でデザインして作り、配布資料も印刷して持ち込みます。分科会開催の日程調整をしたり、提言が大詰めになったり、シンポジウムの準備をしたりしているときには、メンバーや登壇者の間で多数のメールが飛び交い、多くの時間をとられますがそれらはすべて手弁当です。

——会員に選んでもらえるのは名誉なことですが、任期の6年間は使命感和責任感だけに支えられて何となくもっているようなものです。明らかにするのは、会員になることで何か甘い汁を吸えるような組織ではまったくないといっています。

事業所トピックス

☀サンシャインけやき☀

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、この1年間はほとんどの行事が中止になり、マスクや消毒液の不足など、右往左往しているうちにあっという間に時は流れ、令和3年を迎えました。



今年は1月4日から開所し、恒例の庄所神社への初詣、書初めと例年通りの日常が過ぎていきます。今まで声掛けをしても、どうしても書初めができなかったメンバーのひとりが、今年は自ら筆を持ち、書初めができました。

そんな小さな喜びの中、また2月には緊急事態宣言が発令され、気持ちも沈みがちでした。

それでも季節はめぐり、梅の花は満開でよい香りを漂わせ、桜の蕾も膨らんできました。

コロナ過でみんなで出かけることも控えていますが、メンバーはそれなりに自分たちで楽しみを見つけてくれています。

天気のよい日は健康維持のため事業所周りを歩いたり、誕生会を兼ねた調理実習で笑顔も見えます。

消毒、マスク、換気と気を付けることが多い日々ですが、スタッフもメンバーも万全の対策をして、登所するのが楽しいと言ってもらえるような事業所にしたいと思っています。

そして、コロナが終息した後は、他の事業所の皆さんとも交流が出来、楽しい行事も増えることを楽しみにしています。

サンシャインけやき

柳瀬



🏠ひろがりはうす🏠

こちら 🏠ひろがり工房🏠 です！

皆様からのご提供品、いつもありがとうございます。
頂いた品々はバザーやガレッジセールの直販の他に、
制作活動の材料にも活用させて頂いています。

素材は様々で、一般の皆様からの糸や生地、ビーズやリボン等の新古品。
業者様からの木、紙、磁石、ビニールなどの各種端材。
時には靴下工場さんからの靴下のゴム部分を大量に頂いたことも。



そしてそれらを積み上げ、利用者さんとスタッフが一丸となって商品開発会議を開きます。
「これ、何に見える？」「何に使えそう？」
と、ざっくばらんに意見を出し合い、試作を重ね、製品を決定。その後、専門の職人さん達（利用者さん）に各工程を受け持ってもらい、1つの商品に仕上げています。

扱う道具もそれぞれで、針・ミシン・アイロン等の手芸部。レジン・ペンキ・シーラー等の工作部。植木鋏・ペンチ・ニッパー・ドリル・グラインダー、そして最近、電ノコも導入したマシーン部。

品質向上とスキルアップに励みつつ、『百均以上！あったら嬉しい(^)』をコンセプトに、今日も腕を振っています！

ひろがりはうす 橋本

🏠ふれ愛たかつき🏠

・いよいよ新年度が始まっています。ふれ愛たかつきでは新型コロナウイルスの感染予防対策を継続しながら利用者の皆さん、スタッフも大きく体調を崩すことなく、毎日の仕事を頑張っていると思います。



なかなか皆で集まっての活動が難しいため、年始の外
出レクリエーションも中止となりました。以前のように
は活動出来ない部分もありますが、今年度は普段の仕事
の日の昼食に利用者の皆さんが食べてみたいテイクアウ
トメニューを注文して少しでも食事を楽しんでもらおう
と計画中です。

また事業所内の作業室、倉庫等の不用品の処分や整理を行うことで少しでも利
用者の皆さんが仕事をしやすい作業環境を整えるためにも努力していこうと考
えています。

今年度も皆で力を合わせて頑張っていきたいと思います。

■ バイアスカンパニー ■

昨年、秋号以降の投稿ですが、皆様は如何お過ごしでしょうか？

世の中では、新型コロナウイルス感染症の感染者が年末年始と増え続け、2 回目
の緊急事態宣言が出ましたが、バイアスカンパニーでは感染におびえながらも何
とか活動を続ける事が出来ました。



このような世の中の動きに対して、秋ごろよ
り回復しかけていた受託作業(内職作業)も再度、
仕事が減り対応が迫られ中、新たな仕事開発に
取り組み、チョコの包装作業を取り入れる事と
しました。ただこの作業は、食品を扱う事での
衛生管理や温度管理が必要で、既存の事業所空
間では難しく、たまたま空いていた事業所ビル
の 3 階を借り増しする事で、導入に踏み切りま
した。

結果、この決断は幾分の出費が増えた事ではありますが、利用者さんの仕事確保や
色々な資材・物品で手狭になっていたスペースが広くなり安全になった事、また
寄贈頂いた卓球台を置く事で、利用者さんの運動や気分転換になる事などの効果
が得られた事で、思い切って決断して良かったと振り返っています。

このような状況の中、まだ暫くは外へ出て行く活動が出来ず、行事やレクはもちろんの事、外部販売も軒並み中止が予想され、収入確保や支援のあり方などの課題が次年度も続いて行くのでしょうか・・・ね。

たなべ

★きらきら★

コロナで、何も出来ない。何もやれない。日々が続いています。

年末年始から、コロナで、何も出来ない。何もやれない。日々が続いています。クリスマス会、初詣、新年会、節分、行事は事業所で「食べる」行事になっています。

ラウンドワンでのボーリング大会がクリスマスリース作りに変更。

初詣、新年会は近くの大塚神社に行って事業所で新年会。お出掛けの行事が全て中止です。

気温が上がれば、大塚河川敷でテニス、ウォーキングが始まります。

野外活動は、もうしばらくの辛抱です。お花見も散歩だけになります。事業所で食事会があります。

年末年始はコロナの感染が事業所で多く発表されていました。

「きらきら」も感染対策を実行するだけの日々が続いていますが少しでも明るく笑顔で過ごしたいと思います。



NEWS NEWS NEWS

わたしたちの動き＜12月～3月＞

12月、1月の法人事業所会議は中止、情報共有シートを作成し、各事業所で入力したうえでまとめ、活用いたしました。2/18（木） 法人事業所会議
3/11（木） 2020年度第3回理事会

冬の足跡🐾🐾

新型コロナウイルス感染症拡大に伴うイベント中止が続いています。

特に12月から1月にかけては「第3波」と呼ばれる感染拡大状況があり、遅れ気味の緊急事態宣言の中、いったん復活しかけた動きもまた静かに。市内の事業所でも、感染の発生とその対応に大きく力を割いて乗り切るところもありました。年が明けて感染拡大が落ち着き宣言も解除されてからは、高槻市障がい児者スポーツ教室も再開され、またハート to ハートバザーin 安満遺跡公園などのイベント販売にも、私達法人事業所からも参加することができました。

出店参加のお誘い、またご来場ご協力いただいた皆様、ありがとうございました

なお、参加予定で中止となったイベント等は、以下の通りです。

高槻市福祉展、スポーツレクリエーションの集い、天神祭り、高校生がつくる冬まつり(ゆうあいセンター冬のふれあいデー共催)など。

ご寄付

今年も高槻聖マリヤ教会様より、あたたかいお力添えのご寄付を賜りました。今後の活動のため、大切に活用させていただきます。この場をお借りして、篤く御礼申し上げます。



